

## 役員名簿

### 理事・監事

(令和4年10月1日現在)

役職名	氏名	所属
理事長	百島 則幸	理学博士 九州大学名誉教授(放射化学)
副理事長	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境システム工学・廃棄物工学)
副理事長	吉留 総	元福岡県環境部長
業務執行理事	仲島 賢	当協会事業本部長兼総務部長
理事	出光 一哉	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(原子力)
理事	江口 洋之	九州電力株式会社 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部(環境)部長
理事	大上 和敏	理学博士 大分大学教育学部教授(地球化学)
理事	勢一 智子	西南学院大学法学部教授(環境法学)
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院創成科学研究科教授(衛生工学・環境工学)
理事	山口 敦子	農学博士 長崎大学総合生産科学域教授(魚類学・水産資源学)
監事	甲能 市郎	甲能公認会計士事務所 所長
監事	田中 和教	株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 取締役(監査等委員)

### 評議員・顧問

役職名	氏名	所属
評議員(会長)	浅野 直人	福岡大学名誉教授 元当協会理事(法学・環境学)
評議員	芝原 雅彦	理学博士 大分大学理工学部教授(有機化学)
評議員	下東 康幸	理学博士 九州大学名誉教授(生化学)
評議員	杉原 真司	理学博士 九州大学アイソトープ統合安全管理センター准教授(放射化学)
評議員	薛 孝夫	農学博士 元九州大学大学院農学研究院准教授(保全生態学)
評議員	田尻 浩昭	九州電力株式会社 原子力本部 原子力管理部長兼原子力総括部長
評議員	田中 昭代	医学博士 九州大学大学院医学研究院講師(環境医学)
評議員	松藤 康司	工学博士 福岡大学名誉教授(衛生工学・廃棄物工学・環境微生物)
評議員	弓削 こずえ	農学博士 佐賀大学農学部教授(灌漑工学・利水工学)
技術顧問	石橋 健二	工学博士 元九州大学大学院工学研究院教授(放射線計測学・原子力学)
技術顧問	内田 唯史	工学博士 元当協会副理事長(環境工学)
技術顧問	川野 田實夫	大分大学名誉教授 元当協会副理事長(環境科学)
技術顧問	松岡 信明	理学博士 元当協会副理事長(放射化学)
技術顧問	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 前当協会理事長(材料化学・プロセス工学)

### 技術諮問委員

役職名	氏名	所属
技術諮問委員	穴井 謙	工学博士 福岡大学工学部教授(騒音)
技術諮問委員	宇野 誠一	水産学博士 鹿児島大学水産学部教授(環境毒性学・環境化学)
技術諮問委員	岡島 敏浩	理学博士 公益財団法人科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター副所長(放射光物性科学)
技術諮問委員	清崎 淳子	理学博士 公益社団法人日本技術士会 九州本部副本部長(地球科学・地熱地質学・防災)
技術諮問委員	久場 隆広	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境工学)
技術諮問委員	Sergei Y. Tolmachev	理学博士 米国ワシントン州立大学教授(保健物理・放射化学) Washington State University
技術諮問委員	久留 百合子	株式会社ビスネット 代表取締役
技術諮問委員	広城 吉成	工学博士 九州大学大学院工学研究院准教授(地下水環境学・上水道工学)
技術諮問委員	逸見 泰久	理学博士 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授(動物生態学)
技術諮問委員	矢野 真一郎	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境水理学)

## 編集後記

このたびは「環境管理」(第 51 号)をお読みいただき、誠にありがとうございます。

本年は、コロナ禍の終息がまだ見通せない中、2 月 24 日にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、石油や天然ガスの高騰に拍車がかかり、世界的な異常気象、円安も相まって食料品をはじめとする物価上昇に歯止めがかからない状況となっています。これも我が国のエネルギーや食料自給率の低さに大きく起因し、安全保障上の大きな課題となっています。

また、持続可能な人間社会と経済活動は、SDGs ウェディングケーキモデルで例えられるように、環境、すなわち生物多様性を土台に成り立っており、生物多様性の保全が重要視されるようになってきました。

我が国は世界的にも生物多様性が高い地域で、ジャパン・ホットスポットと呼ばれています。その最たる場所が昨年 7 月に世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島及び西表島」で、本号の巻頭言で伊澤雅子先生にホットスポットたる所以とその保全についてご紹介いただきました。

我が国は天然資源に恵まれないと思いがちですが、周辺の太平洋北西部海域は、世界で最も漁獲量が多く、その環境を保全し持続的に利用していくことが望まれます。

本号の特集では「海域環境の持続可能な利用と保全・再生」と題し、我が国沿岸の環境・漁業において現在直面している問題について、逸見泰久、清田雅史、磯辺篤彦諸先生方に専門家の視点から考察いただき、課題解決方法のご示唆もいただきました。

特別寄稿論文では、近年頻繁に起こる災害等で流出が懸念される有機化学物質の迅速調査・分析方法のご提案を宮脇先生から、また、災害後の河川復旧や多自然川づくりほか建設物の維持管理等で最近注目されている 3D 技術: CIM の最新技術と課題、事例等を大槻先生からご紹介いただきました。

業務や研究でお忙しい中、ご寄稿いただきました著者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

本原稿を執筆中の 9 月 27 日には、宗像市の離島で 140 人の全島民が参加した「世界的にも珍しい実証実験」の結果が発表され、全国ニュースで流れました。本実験こそが本号の研究報告「産官学連携による生活排水の影響に関する社会実験の成果」であり、SDGs が目指す海洋や海洋資源の保全と持続可能な利用につながるものであります。

今後とも、九環協は皆様とともに社会の持続的発展に貢献していく所存です。これまで同様、ご指導・ご支援のほど、どうぞよろしく願いいたします(高比良)。

### 一般財団法人九州環境管理協会 会報

### 「環境管理」第 51 号

令和 4 年 10 月 31 日発行

発行者 百島 則幸

発行所 一般財団法人九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411